



平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月10日

上場会社名 日本新薬株式会社

上場取引所 東大

コード番号 4516 URL <http://www.nippon-shinyaku.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 前川 重信

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理・財務部長 (氏名) 櫻井 太郎

四半期報告書提出予定日 平成21年11月11日

配当支払開始予定日

TEL 075-321-9114

平成21年12月10日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	30,070	△5.9	2,910	△37.3	3,031	△39.8	2,027	△33.6
21年3月期第2四半期	31,942	—	4,644	—	5,040	—	3,053	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	30.01	—
21年3月期第2四半期	45.15	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	100,525	78,795	78.2	1,164.02
21年3月期	98,286	76,344	77.5	1,127.49

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 78,638百万円 21年3月期 76,192百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
22年3月期	—	9.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	10.00	19.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,300	1.9	7,700	2.0	8,100	0.7	4,700	4.4	69.57

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 70,251,484株 21年3月期 70,251,484株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 2,693,605株 21年3月期 2,674,288株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 67,565,051株 21年3月期第2四半期 67,622,384株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。連結業績予想に関する事項については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日～9月30日）の当社グループを取り巻く環境は、医薬品業界においては医療費抑制のための諸施策が引き続き推進され、食品業界においては消費の低迷が長期化していることに加え低価格志向の動きが激しく、それぞれ厳しい状況が続いております。

当第2四半期連結累計期間の業績は、前年同期に比し工業所有権等収益が減少し、売上高は300億7千万円（対前年同期比5.9%減収）、営業利益は29億1千万円（対前年同期比37.3%減益）、経常利益は30億3千1百万円（対前年同期比39.8%減益）、四半期純利益は20億2千7百万円（対前年同期比33.6%減益）となりました。なお、当四半期会計期間に特別利益として土地売却益2億6百万円を計上しております。

医薬品事業では、血管拡張性 β_1 遮断薬「セレクトール」、前立腺癌治療剤「エストラサイト」が競合品の影響等により伸び悩みましたが、主力品である前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」が大きく伸長、アズレン含嗽液「アズノールうがい液」も伸長し、粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」、非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤「ハイペン」等が堅調に推移、平成21年7月に日本イーライリリー株式会社から販売権の譲渡を受けたED治療剤「シアリス」の売上も寄与しました。また、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」原薬の売上も伸長いたしました。一方、前年同期にライセンス契約締結に伴う契約一時金を計上したため、その反動により工業所有権等収益は大きく減少しました。その結果、売上高は244億9千3百万円と対前年同期比3.3%の減収となりました。

機能食品事業では、加工食品業界、健康食品業界とも厳しい状況が続く中、健康食品素材は堅調に推移しましたが、たん白製剤とニュートリション素材は円高と輸入原料相場の大幅な下落を販売価格に反映させたため売上が大きく減少し、売上高は55億7千6百万円と対前年同期比15.7%の減収となりました。

[研究開発の状況]

国内では、吸入ステロイド剤「NS-126（販売名：エリザス®カプセル外用400 μ g、一般名：デキサメタゾンシペシル酸エステル）」はアレルギー性鼻炎治療剤として平成21年10月に承認されました。非麻薬性鎮痛剤「NS-315（一般名：トラマドール塩酸塩）」はがん性疼痛治療剤として承認申請中です。また、慢性非がん性疼痛への効能追加について、平成21年7月に第二相試験を開始しました。アルコール依存症治療剤「NS-11（一般名：アカンプロセート）」については、第三相試験を実施中です。日本イーライリリー株式会社から導入した「LY450190（一般名：タダラフィル）」については、同社が、肺動脈性肺高血圧症（PAH）治療剤として「アドシルカ®錠20mg」の販売名で平成21年10月に承認を取得しました。また、前立腺肥大症治療剤としても第三相試験を実施中です。骨髄異形成症候群治療剤「NS-17（一般名：アザシチジン）」については、第二相試験を実施中です。肺高血圧症治療剤「NS-304」については、アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社と共同で第二相試験を準備中です。抗そう痒剤「NST-141」については、大鵬薬品工業株式会社と共同で平成21年5月に第一相試験を開始しました。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、米国では導出先のオプティマー社が申請準備中です。中国では導出先のリーズ・ファーマ社（香港）が第三相試験を準備中です。「NS-304」については導出先のアクテリオン ファーマシューティカルズ社（スイス）が欧州で平成21年7月に第二相試験を終了し、第三相試験を準備中です。サイトレックス社（米国）へ導出した慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については第二相試験を準備中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は1,005億2千5百万円と前連結会計年度末に比べ22億3千9百万円の増加となりました。流動資産は、有価証券等が増加しましたが、受取手形及び売掛金等が減少し、568億4百万円と前連結会計年度末に比べ7億7千4百万円の減少、固定資産は、有形固定資産が減少しましたが、投資その他の資産が増加し、437億2千万円と前連結会計年度末に比べ30億1千2百万円の増加となりました。

負債は、その他流動負債、繰延税金負債等が増加しましたが、未払金、未払法人税等が減少し、217億2千9百万円と前連結会計年度末に比べ2億1千3百万円の減少となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加により、787億9千5百万円と前連結会計年度末に比べ24億5千1百万円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.7ポイント増加し78.2%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ20億4千万円増加し、174億8千7百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、59億7百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では売上債権の減少33億9千9百万円、税金等調整前四半期純利益32億3千8百万円、減価償却費14億4千3百万円、支出項目では法人税等の支払額15億4百万円、その他流動資産の増加6億1百万円です。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、30億3千2百万円の支出となりました。主な内訳は、支出項目では、長期前払費用の取得による支出25億6千2百万円、有形固定資産の取得による支出6億6千6百万円、無形固定資産の取得による支出2億3千2百万円、収入項目では、有形固定資産売却による収入2億8百万円です。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、6億7千万円の支出となりました。配当金の支払い等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

医薬品、機能食品とも厳しい市場環境が続きますが、当第2四半期連結累計期間の実績を踏まえ、通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

売上高 643億円、営業利益 77億円、経常利益 81億円、当期純利益 47億円

参考 前回公表（平成21年5月15日）の業績予想

売上高 647億円、営業利益 77億円、経常利益 81億円、当期純利益 47億円

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
（簡便な会計処理）

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,247	14,687
受取手形及び売掛金	24,232	27,632
有価証券	5,294	1,798
商品及び製品	6,175	6,050
半製品	740	789
仕掛品	371	381
原材料及び貯蔵品	3,534	3,609
繰延税金資産	1,583	1,617
その他	1,623	1,027
貸倒引当金	△0	△16
流動資産合計	56,804	57,578
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,703	9,021
土地	8,160	8,161
その他（純額）	3,020	3,222
有形固定資産合計	19,884	20,406
無形固定資産	496	307
投資その他の資産		
投資有価証券	12,837	11,532
繰延税金資産	52	164
投資不動産（純額）	1,304	1,330
長期前払費用	8,288	6,166
その他	893	838
貸倒引当金	△36	△39
投資その他の資産合計	23,340	19,993
固定資産合計	43,720	40,708
資産合計	100,525	98,286

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,254	4,432
1年内返済予定の長期借入金	53	70
未払金	2,547	3,267
未払法人税等	1,252	1,551
賞与引当金	2,466	2,463
返品調整引当金	26	48
その他	2,223	1,688
流動負債合計	12,823	13,522
固定負債		
長期借入金	156	182
繰延税金負債	408	0
退職給付引当金	8,104	8,009
その他	235	228
固定負債合計	8,905	8,420
負債合計	21,729	21,942
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,174	5,174
資本剰余金	4,444	4,444
利益剰余金	66,972	65,553
自己株式	△2,006	△1,985
株主資本合計	74,585	73,186
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,076	3,032
繰延ヘッジ損益	△1	0
為替換算調整勘定	△21	△26
評価・換算差額等合計	4,053	3,006
少数株主持分	156	151
純資産合計	78,795	76,344
負債純資産合計	100,525	98,286

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	31,942	30,070
売上原価	14,243	13,937
売上総利益	17,699	16,133
返品調整引当金戻入額	—	22
返品調整引当金繰入額	24	—
差引売上総利益	17,675	16,155
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	2,807	2,918
賞与引当金繰入額	1,488	1,581
販売促進費	613	560
退職給付引当金繰入額	489	558
減価償却費	172	179
研究開発費	3,812	3,890
その他	3,647	3,555
販売費及び一般管理費合計	13,030	13,245
営業利益	4,644	2,910
営業外収益		
受取利息	109	52
受取配当金	140	112
受取賃貸料	152	158
為替差益	175	—
その他	162	109
営業外収益合計	740	433
営業外費用		
支払利息	9	5
寄付金	97	91
固定資産処分損	32	18
工場解体費用	70	—
賃貸費用	47	53
為替差損	—	105
その他	87	37
営業外費用合計	345	311
経常利益	5,040	3,031
特別利益		
固定資産売却益	—	206
特別利益合計	—	206
税金等調整前四半期純利益	5,040	3,238
法人税、住民税及び事業税	1,646	1,205
法人税等調整額	338	0
法人税等合計	1,985	1,205
少数株主利益	1	5
四半期純利益	3,053	2,027

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,040	3,238
減価償却費	1,343	1,443
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△263	95
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△18	△37
受取利息及び受取配当金	△249	△164
支払利息	9	5
為替差損益 (△は益)	△107	168
固定資産売却損益 (△は益)	—	△206
固定資産処分損益 (△は益)	30	18
売上債権の増減額 (△は増加)	1,097	3,399
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△828	9
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△170	△601
仕入債務の増減額 (△は減少)	△398	△178
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△51	△96
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△446	159
その他	27	△2
小計	5,015	7,250
利息及び配当金の受取額	249	165
利息の支払額	△9	△5
法人税等の支払額	△1,622	△1,504
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,632	5,907
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△40	△50
定期預金の払戻による収入	70	30
有価証券の取得による支出	—	△99
有価証券の償還による収入	100	483
投資有価証券の取得による支出	△34	△102
投資有価証券の売却及び償還による収入	30	0
有形固定資産の取得による支出	△583	△666
有形固定資産の売却による収入	35	208
無形固定資産の取得による支出	△24	△232
貸付けによる支出	△13	△71
貸付金の回収による収入	41	28
長期前払費用の取得による支出	△1,904	△2,562
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,324	△3,032
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△10	—
長期借入金の返済による支出	△589	△42
配当金の支払額	△609	△607
自己株式の取得による支出	△66	△20
その他	4	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,271	△670
現金及び現金同等物に係る換算差額	99	△163
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	135	2,040
現金及び現金同等物の期首残高	15,153	15,446
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,289	17,487

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	25,329	6,613	31,942	—	31,942
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	25,329	6,613	31,942	—	31,942
営業利益	4,306	338	4,644	—	4,644

当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	24,493	5,576	30,070	—	30,070
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	24,493	5,576	30,070	—	30,070
営業利益	2,830	79	2,910	—	2,910

(注) 1. 事業区分は、販売方法及び製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して区分しております。

2. 事業区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品名
医薬品事業	泌尿器官用薬剤、炎症・アレルギー用薬剤、血液がん用薬剤、循環器系及び代謝性薬剤、消化器官用薬剤
機能食品事業	調味・香辛料、健康食品素材、品質安定保存剤、たん白製剤、ニュートリション素材、除菌・洗浄剤、小麦製品

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

（6）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

主力製品売上高

(単位:百万円)

平成21年11月10日
日本新薬株式会社

製品名	薬効	第2四半期累計			通期		
		H21年 3月期	H22年 3月期	前年同期 増減率	H20年 3月期	H21年 3月期	H22年 3月期(予)
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	2,849	3,349	17.5%	5,586	5,950	6,600
ハイペン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	2,949	3,028	2.7%	6,324	5,746	5,700
ガスロンN	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	2,052	2,234	8.9%	4,064	4,080	4,300
セレクトール	血管拡張性β1遮断薬	1,766	1,692	△ 4.2%	3,699	3,415	3,200
ブラダロン	頻尿治療剤	1,579	1,587	0.5%	3,462	3,153	3,000
エストラサイト	前立腺癌治療剤	1,549	1,485	△ 4.1%	3,043	3,029	2,900
セファドール	抗めまい剤	1,461	1,471	0.7%	2,929	2,842	2,800
キロサイド	代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤	1,390	1,393	0.3%	2,683	2,676	2,500
アズノールうがい液	アズレン含嗽液	870	1,102	26.7%	1,923	2,182	2,600
バイナス	アレルギー性鼻炎治療剤	832	868	4.3%	2,206	2,663	2,600
シアリス	勃起不全(ED)治療剤	—	608	—	—	—	2,200
工業所有権等収益		2,642	30	△ 98.8%	1,683	2,582	2,100
プルリフロキサシン原薬		486	608	25.2%	1,422	1,009	1,300
医薬品計		25,329	24,493	△ 3.3%	48,659	50,357	53,500
機能食品計		6,613	5,576	△ 15.7%	10,790	12,714	10,800
売上高		31,942	30,070	△ 5.9%	59,450	63,072	64,300

製品開発状況

平成21年11月10日現在
日本新薬株式会社

<国内開発状況>

開発段階	開発記号 〔商品名〕 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
発売準備中	NS-126 〔エリザスカプセル 外用400μg〕 (テキサメタゾンシハシル酸エステル)	炎症・ アレルギー系	アレルギー性鼻炎	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
発売準備中	LY450190 〔アドシルカ錠20mg〕 (タグラフィル)	循環代謝系	肺動脈性 肺高血圧症	導入： 日本イーライリリー	日本イーライリリー
開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
申請中	NS-315 (トラマトール塩酸塩)	炎症・ アレルギー系	がん性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュンタル社(独)	自社
PⅢ	NS-11 (アカンプロセート)	その他	アルコール依存症	導入： メルケロノ社(スイス)	自社
PⅢ	LY450190 (タグラフィル)	泌尿器系	前立腺肥大症 に伴う排尿障害	導入： 日本イーライリリー	日本イーライリリー
PⅡ	NS-126 (テキサメタゾンシハシル酸エステル)	炎症・ アレルギー系	気管支喘息	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
PⅡ	NS-17 (アザシジン)	血液がん	骨髄異形成症候群	導入： セルジーン社(米)	自社
PⅡ	NS-315 (トラマトール塩酸塩)	炎症・ アレルギー系	慢性非がん性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュンタル社(独)	自社
PⅡ準備中	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	共同： アクトリオン・シージャパン
PⅠ	NST-141	炎症・ アレルギー系	アトピー性皮膚炎に伴う そう痒	自社	共同： 大鵬薬品工業

<海外開発状況>

開発段階	開発記号 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
発売準備中	NM441 (ブルフロキサシ)	感染症	合成抗菌剤	自社	導入： 柳韓洋行社(韓)
申請準備中					導入： オプティマー社(米)
PⅢ準備中					導入： リーズ・ファーマ社(香港)
PⅢ準備中	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	導入： アクトリオン社(スイス)
PⅡ準備中	NS-187	血液がん	慢性骨髄性白血病	自社	導入： サイトレックス社(米)

製品開発状況・補足資料

平成21年11月10日現在
日本新薬株式会社

発売準備中	
NS-126 [エリザスカブセル外用400 μ g] (デキサメタゾンシロ酸エステル)	1日1回投与の吸入ステロイド剤で、アレルギー性鼻炎治療剤として「エリザスカブセル外用400 μ g」の販売名で平成21年10月に承認取得。薬価基準収載(同年12月予定)後速やかに発売する予定。平成20年6月にユ・ヨン社(韓国)へ導出。
LY450190 [アドシルカ錠20mg] (タダラフィル)	肺動脈性肺高血圧症の適応症については、日本イーライリリーが「アドシルカ錠20mg」の販売名で平成21年10月に承認取得。薬価収載(同年12月予定)後速やかに発売する予定。
申請中	
NS-315 (トラマトール塩酸塩)	グリネンター社(独)から導入した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100カ国以上で販売されている。軽度から中等度の疼痛を伴う各種癌における鎮痛を適応症として平成20年7月に承認申請。
フェーズⅢ	
NS-11 (アカンプロセト)	平成15年メルクセローノ社(スイス)から導入したアルコール依存症治療剤で、既に欧米で発売済み。国内では平成21年3月にPⅢ試験を開始した。
LY450190 (タダラフィル)	前立腺肥大症に伴う排尿障害の適応症については日本イーライリリーが国内PⅢ試験実施中。
フェーズⅢ準備中	
NS-304 (海外)	自社開発したプロドラッグ型経口剤で、活性代謝物が長時間血中に持続し、強力かつ選択的なPGI ₂ アゴニスト活性を示す。肺高血圧症治療剤として、欧州医薬品局よりオーファン指定済み。平成20年4月にアクテリオン社(スイス)への導出契約を締結。日本を除く全世界ではアクテリオン社が開発する。平成21年7月にPⅡ試験を終了し、PⅢ試験準備中。
フェーズⅡ	
NS-126 (デキサメタゾンシロ酸エステル)	気管支喘息についてPⅡa試験終了。
NS-17 (アザチジン)	平成18年セルジーン社(米国)から導入した骨髄異形成症候群(MDS)治療剤で、米国で第一選択薬として用いられている。平成20年12月にセルジーン社がEUで承認取得。全てのMDSサブタイプに効果が認められ、白血病(AML)への転化を遅らせる。作用機序は、血液形成細胞DNAのメチル化阻害。国内PⅡ試験実施中。平成20年11月にオーファン指定。
NS-315 (トラマトール塩酸塩)	慢性非がん性疼痛について、平成21年7月にPⅡ試験を開始した。
フェーズⅡ準備中	
NS-304 (国内)	国内は、アクテリオン社との共同開発。PⅠ試験を終了し、肺高血圧症のPⅡ試験を平成21年12月開始に向けて準備中。
NS-187	イマチニブ耐性変異体Bcr-ab1チロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、イマチニブ耐性にも奏効する慢性骨髄性白血病治療剤として開発。平成17年末にサイトレックス社(米国)へ導出。PⅡ試験準備中。
フェーズⅠ	
NST-141	自社開発した抗ヒスタミン作用ではない新規作用機序の外用剤で、既存の薬剤が奏効しない難治性のそう痒に対しても効果が期待できる。アトピー性皮膚炎に伴うそう痒を適応症として開発予定で、平成20年10月に大鵬薬品工業と基本契約を締結し、国内において共同開発・共同販売となる。平成21年5月にPⅠ試験を開始した。